

（「価値観」の正体？）



まさに昨日の昨日まで、そのひとの価値観というのは、それがあはれはそれをすることが、そのひとにとって有意味、有意義、有用とを感じるものだと大して考えもせず何となく思っていました。有り体に言うと結構大袈裟なものを想像していたのです。

ところが今朝、ふとその字を見ると「観」と書いてあることに気づいたんです。

「観」で「みる」だよな。それをあはれはそれをすることに価値があるとみる、またはみえる。

そこから連想が浮かんで、突然、ガン黒汚ギャルでスカートの下に体操着をはいて登校するJK(女子高生)を思い描きました。

「そうか、価値観て有意味、有意義、有用なんてものじゃなくて、要するにそれがカッコええやん！ということなんだ」

と思ひ当たり、それが更に進んで、いささか難しい言い回しになりますが

「とどのつまり価値観というのは、何のことはない、その人の「美学」のことなんだ」

と独り合点。

そう思い替えると、人が見てどう考えても無意味、無意義、無用なことに、時として血道を上げる当人の姿が理解できるような気がしたのです。

ひとが抱く美意識というのは、到底理性では計り知れないものがあります。とんでもないものを美しいと思う、感じるのが当たり前の世界で、それがどこからやってくるのかすら分からない世界なんですから。

ひょっとしたら千葉のジャガイモみたいな僕だって、どこかの誰かに「カッコええひと」と思われている可能性は捨てきれませんよね。

期待しましょう（笑）